の濃度が約100μg（力価）となるよう、更に５号緩衝液を加え、正確に一定容量とし、標準液とする。試料溶液及び標準液５μLずつをクロマトグラフ用３号ろ紙の下端から約５cmのところに並べてスポットし、風乾する。これをｎ－ブタノール・ピリジン・水・酢酸混液（６：４：３：１）の展開溶媒を用いて、上昇法により約16～18時間展開した後、風乾する。次に、このろ紙を基層（約３mm厚）と種層（約１mm厚）からなる大型平板培地にのせて、室温に約20～30分間放置した後、ろ紙を取り除き、37℃で16時間培養後観察するとき、試料溶液及び標準液から得た阻止円のRf値は等しい。

寒天平板　基層用培地は、８号培地を用い、種層用培地は、９号培地を用いる。種層用培地には、菌液を0.5％加える。

菌液の調製　*Bordetella bronchiseptica* ATCC 4617を試験菌とし、一般試験法の力価試験法により菌液を調製する。

純度試験

①　pH　本品の水懸濁液（１→10）のpHは、3.0～5.0でなければならない。

②　重金属　本品1.0ｇ（0.95～1.04ｇ）を量り、重金属試験法第２法により試料溶液を調製し、鉛標準液2.0mLを用いて比較液を調製して重金属の試験を行うとき、試料溶液の呈する色は、比較液の呈する色より濃くてはならない（20μg／ｇ以下）。

③　ヒ素　本品1.0ｇ（0.95～1.04ｇ）を量り、ヒ素試験法第３法により試料溶液を調製し、装置Ａを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、吸収液の色は、標準色より濃くてはならない（２μg／ｇ以下）。

乾燥減量　5.0％以下（１ｇ，減圧，60℃，３時間）

強熱残分　20.0％以下（１ｇ）

窒素　6.0～8.0％（ケルダール法）

粗脂肪　5.0％以下

粗繊維　4.0％以下

力価試験

寒天平板　硫酸コリスチン（その１）製造用原体の規定を準用する。

試験菌　硫酸コリスチン（その１）製造用原体の規定を準用する。

常用標準希釈液の調製　硫酸コリスチン（その１）製造用原体の規定を準用する。

試料溶液の調製　試験を行うために必要な量の本品を有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、１mL当たりの濃度（推定値）が約500μg（力価）となるよう、希塩酸（１→２）一定容量を全量ピペットを用いて加え、十分かき混ぜた後、遠心分離し、上澄液を水酸化ナトリウム溶液（１→５）でpH6.0に調整し、試料原液とする。試験を行うために必要な量の試料原液を全量ピペットを用いて量り、以下硫酸コリスチン（その１）製造用原体の規定を準用する。

(イ)　製造の方法の基準

*Bacillus polymyxa*のコリスチン生産菌株を好気的に培養し、培養を終了した後、硫酸コリスチンを含む培養液を乾燥して製造すること。

(ウ)　保存の方法の基準

遮光した気密容器に保存すること。

(エ)　表示の基準

本品の直接の容器又は直接の被包に、次の文字を記載すること。

硫酸コリスチン（飼料級）